

防火材料認定番号	品目名
NM-8585	塗料塗装/不燃材料
QM-9816	塗料塗装/準不燃材料
RM-9364	塗料塗装/難燃材料

1液水性反応硬化形鉄部用シリコン系皮脂軟化対策塗料

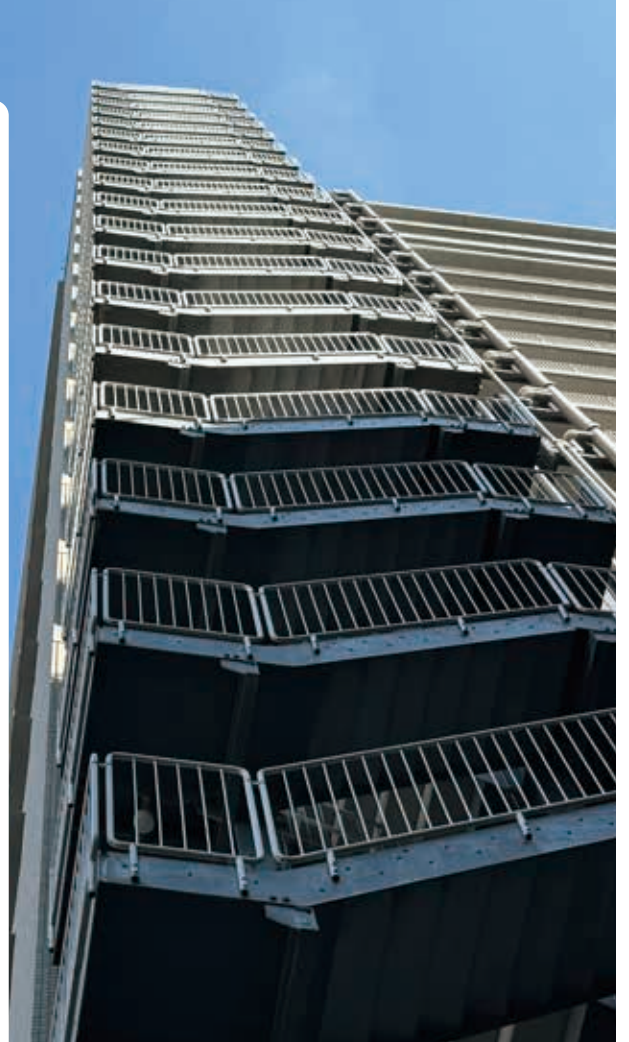
ホルムアルデヒド放散等級

F☆☆☆☆



# 水性ファイブSiII

手が触れるような鉄部にも対応可能  
建築鉄部用水性シリコン系塗料がリニューアル!



Basic & New  
NIPPON PAINT



# 水性ファインSiII

## 平滑な仕上がりと作業感 樹脂軟化に強い鉄部用水性塗料

### 特長

ニッペ水性ファインSiIIは1液の水性塗料でありながら、レオロジーコントロールにより弱溶剤系塗料なみの平滑な仕上がりと作業感を実現しました。

### ①水性鉄部塗装が可能

「1液水性デクロ」等の水性さび止め塗料との組合せにより、内外部での鉄部塗装が可能です。仕上がり、防錆性能ともに当社弱溶剤系仕様と同等の性能を有しています。

#### 【CCT120サイクルでの防錆試験結果】

下塗り:当社弱溶剤1液エポキシ樹脂  
さび止め塗料  
上塗り:当社弱溶剤1液シリコン樹脂系  
上塗り塗料



下塗り:1液水性デクロ  
上塗り:水性ファインSiII



弱溶剤同等の  
防錆力を発揮

\*さび板素地に対し、それぞれを塗装しJIS K 5600 7-9サイクル腐食試験(サイクルD)を120サイクルで実施

### ②作業性・仕上がり性

水性塗料でありながら、弱溶剤系塗料を塗装しているような作業感と仕上がり性です。

#### 【はけから塗料を垂らした際のイメージ】



◀従来水性塗料

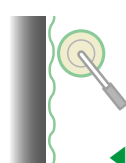
エマルジョン樹脂の特性上マヨネーズのようなポツテリとした粘性で粘り気が少ない



◀水性ファインSiII

レオロジーコントロールにより、粘りのある粘性としたことで、弱溶剤系塗料なみの作業感と平滑な仕上がり性を実現

#### 【鉄扉面に塗装した際のイメージ】



◀従来水性塗料

塗装後の塗料はフローしにくく、平滑面では仕上がり肌に影響しやすい



◀水性ファインSiII

塗装後の塗料はフローし易く、従来の「水性ファインSiII」より更に高い平滑性を実現。弱溶剤塗料にも引けをとらない仕上がり肌です。

### ③耐樹脂軟化

樹脂がなじみにくく、また浸透しにくい塗膜になります。

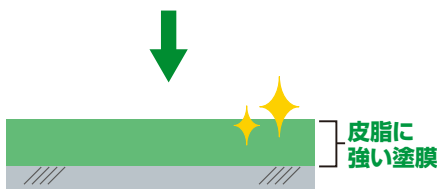
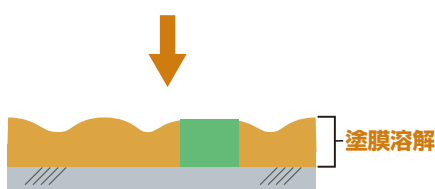
#### 【特殊モノマーで樹脂に強い塗膜に】

◆耐樹脂軟化性イメージ [● 親油性モノマー ● 親水性モノマー]

一般水性塗料



水性ファインSiII



水性ファインSiIIは、樹脂と馴染みにくい親水性モノマーを採用することで一般水性塗料よりも高い耐樹脂軟化性を発揮します。

#### 【耐樹脂軟化試験の結果】



水性ファインSiII

塗膜表面のべたつきが極めて軽微で清潔



従来水性塗料

塗膜表面にべたつきが発生し、汚れが附着



一般NADウレタン塗料

塗膜表面にべたつきが発生し、汚れが附着

人の手が触れやすい箇所2ヵ月経過観察

### ④優れた付着性

1液水性反応硬化形なので、密着性にすぐれています。

### ⑤耐候性・耐久性

シリコン樹脂を複合した最先端の1液水性反応硬化技術を用いることで、優れた耐候性・耐久性を実現しました。

### ⑥環境にやさしい

水性塗料ですので、環境にもやさしく、臭気対策が必要な個所への施工に最適です。

### ⑦低汚染性

塗膜表面を親水化していることで、外部の汚染に対し、優れた効果を発揮することができます。

### ⑧防藻・防かび

藻・かびの発生を抑制する効果があり、美観を維持します。

## 用途

- 戸建て住宅・マンション・ビル・商業施設・工場・倉庫・学校・公共施設など、臭気対策が必要な内外部鉄・木部面・内壁面の新設および改修塗装

## 適用下地

**新設下地：**鉄部、木部、金属系素地、コンクリート、プラスターボードなど

**改修下地：**上記各種素材面の各種旧塗膜面(\*)

各種下塗りを選定することで各種素材への適用が可能です。

(\*)・既存塗膜が合成樹脂調合ペイント、フタル酸樹脂エナメルの場合には、下地処理として、十分な研磨紙すりを実施してください。下地処理が不十分な場合には、塗膜はく離の原因となります。

・既存塗膜が高弾性塗膜の場合には、適用できませんので、ご注意ください。

・鉄骨階段踏面や機械式駐車場バレット面など、塗膜に過度な衝撃が加わる部位への適用は避けてください。詳細については、最寄りの営業所にお問合せください。

※外壁には適用できません。

## 製品体系

塗料名	色相	つや	容量	希釈剤	希釈率(%)	使用量(kg/㎡/回)	塗装方法
ニッペ 水性ファインSiII	各色	つや有り 5分つや有り 3分つや有り	15kg・4kg	水道水	0~10	0.08~0.12	はけ ウールローラー

※上記の各数値は標準的な数値です。被塗物の形状、素地の状態、気象条件、希釈率および測定機器・測定方法により増減します。

※上記の使用量は、記載の塗装方法で標準的に使用する量を記載しています。必要に応じ、所定の使用量・膜厚になるように使用量・塗り回数を調整してください。

## 主な適用下塗り塗料

	鉄部・金属系下地面	木部面	内壁面
適用下塗り	1 液水性デクロ オーデハイボンプライマー 1 液ハイボンファインデクロ パーフェクトプライマー 当社建築用水性さび止め塗料各種 当社建築用弱溶剤系さび止め塗料各種	水性ウッドベースII Hi-CR下塗白(無鉛) 1 液ファインウレタンU100木部用下塗	水性カチオンシーラー透明 水性カチオンシーラーホワイト 水性透明シーラー 水性ホワイトシーラー 水性シミ止めシーラー 当社水性シーラー各種 当社弱溶剤系シーラー各種

## 乾燥時間

	5~10℃	23℃	30℃
指触乾燥	40分	15分	10分
塗り重ね乾燥	6時間以上	3時間以上	3時間以上

・乾燥時間は目安です。使用量、通風、湿度および素地の状態によって異なります。

## 標準塗装仕様(塗り替え)

### ●一般鉄部

工程	塗料名	塗り回数	使用量(kg/㎡/回)	塗り重ね乾燥時間(23℃)	希釈剤	希釈率(%)	塗装方法
下地調整	膨れたり、割れたり、浮いている劣化塗膜は、周辺も含めて入念に除去する。さびは電動工具やサンドペーパー・研磨布などを用いて入念に除去し、清掃する。						
下塗り	1 液水性デクロ	1	0.13~0.15	4時間以上7日以内	水道水	0~5	はけ・ウールローラー
上塗り	ニッペ 水性ファインSiII	2	0.08~0.10	3時間以上	水道水	0~10	はけ・ウールローラー

### ●硬質塩ビ・FRP部

工程	塗料名	塗り回数	使用量(kg/㎡/回)	塗り重ね乾燥時間(23℃)	希釈剤	希釈率(%)	塗装方法
下地調整	サンドペーパーなどで目あらし実施し、粉じんを除去した清浄な面とする。						
上塗り	ニッペ 水性ファインSiII	2	0.08~0.10	3時間以上	水道水	0~10	はけ・ウールローラー

### ●木部(内部)

工程	塗料名	塗り回数	使用量(kg/㎡/回)	塗り重ね乾燥時間(23℃)	希釈剤	希釈率(%)	塗装方法
下地調整	膨れたり、割れたり、浮いている劣化塗膜は、周辺も含めて入念に除去する。油類は溶剤等で拭き取る。P120~220研磨紙で研磨後、水拭きして研磨カスを除去する。やに部はラックニスで部分補修しておく。						
下塗り	水性ウッドベースII	1	0.15~0.20	2時間以上	水道水	0~10	はけ・ウールローラー
上塗り	ニッペ 水性ファインSiII	2	0.08~0.12	3時間以上	水道水	0~10	はけ・ウールローラー

### ●コンクリート(内部)

工程	塗料名	塗り回数	使用量(kg/㎡/回)	塗り重ね乾燥時間(23℃)	希釈剤	希釈率(%)	塗装方法
下地調整	ごみ、未硬化セメント粉末、粉じん、油脂分などの付着物をワイヤブラシ、皮すき、サンドペーパー、ウエスなどで除去し、乾燥した清浄な面とする。						
下塗り	水性カチオンシーラー透明	1	0.10~0.16	4時間以上	無希釈	—	ウールローラー
上塗り	ニッペ 水性ファインSiII	2	0.10~0.12	3時間以上	水道水	0~10	ウールローラー

1. 絶えず結露が発生するような用途、場所での使用は避けてください。著しい結露が発生する場所では、塗料中の水溶成分が表面に溶出し、粘着物などとなって析出するおそれがあります。著しい結露が予測される場合は、塗装を避けるか、溶剤系塗料での塗装をおすすめいたします。
2. 塗装場所の気温が5℃未満、もしくは湿度85%以上である場合、または換気が十分でなく結露が考えられる場合、塗装は避けてください。
3. FRP、塩ビに直接塗装する場合は、下地調整(目粗し)を実施してください。厚肉硬質塩ビなど素材の種類により非常に付着し難い素材の場合がありますので、あらかじめ試験塗装を実施し付着性を確認してください。
4. つや調整品では、塗り継ぎや補修でつやむらが出やすいので、面を切って通して塗装してください。
5. 過剰希釈をすると本来のつやが発現しないおそれがありますので、規定の希釈量をまもってください。
6. つや調整品は被塗物の形状、素地の状態、膜厚、色相、塗り重ね乾燥時間などにより、実際のつやと若干違って見える場合がありますので、事前に試し塗りをして確認してください。
7. つや調整品は、使用中にも塗料液が分離しやすい場合がありますので、適宜かくはんしながらご使用ください。
8. 防藻・防かび効果は、繁殖を抑制するものです。すでに繁殖している場合は、下地処理として除去および殺菌処理をしてから塗装してください。
9. 塗装後、乾燥不十分な状態で降雨結露などがある場合や、低温、高湿度、通風のない場合には、膨れ、はく離、割れ、白化、シミが発生するおそれがありますので、塗装を避けてください。やむを得ず塗装する場合は、強制換気などで湿気を飛ばすようにしてください。シミが発生した場合は乾燥後水拭きして除去してください。
10. 色相によっては降雨、結露によってぬれ色になる場合がありますが、乾燥すると元に戻ります。
11. 乾燥後の塗膜に付いた汚れは、シンナーなどの溶剤では拭かず、せっけん水で洗浄してください。
12. 乾燥条件によっては塗膜表面に粘着を感じることがありますが、時間とともになくなります。
13. 反応硬化タイプの塗料のため、使用後ははけなどはできるだけ早く水で洗浄してください。固まった場合は、すみやかにラッカーシンナーで洗浄してください。
14. 動物はけは、はけが固まったりグマになりやすいので、できるだけナイロンはけをご使用ください。
15. 繊維壁、耐火被覆用けい酸カルシウム板、ロックウールなどの非常に弱い素材には塗装できません。
16. 旧塗膜に発生した藻・かびは、洗浄などで必ず除去し、清浄な面としてください。付着阻害をおこなっておそれがあります。
17. 内部塗り替えにおいて旧塗膜がSOP、FEなどの油性系の場合、研磨ずりを行ってください。下地処理が不十分な場合は、塗膜はく離の原因となります。
18. 既存塗膜のはく離箇所は、既存塗膜の塗装仕様でパターン合わせを行ってください。
19. タイル面の洗浄に使用する薬剤が塗装面に付着すると、変色や早期劣化などを生じることがありますので、この様な場合には薬剤が付着しない様に塗膜面の養生を行なってください。
20. 塗装直後から頻りに人が触れるようなドアの一部や手すりなどでは、皮脂の影により塗膜表面の軟化が起こるおそれがあります。必要に応じて保護プレートなどで接触防止を行ってください。
21. カウンター、陳列棚、ベンチ、床面などものが常時置かれるような場所には跡がつくおそれがありますので塗装しないでください。
22. 屋外の塗装で降雨、降雪のおそれがある場合、および強風時は塗装を避けてください。
23. 塗装時および塗装後に密閉しますと乾燥が遅れますので、換気を十分に行ってください。
24. 塗装時および塗料の取り扱い時は、換気を十分に行い、火気厳禁にしてください。
25. 飛散防止のため必ず養生を行ってください。
26. スチールドア枠回りなどシーリング材との接触が起こる部分への塗装は避けてください。可塑剤の移行などにより塗膜が軟化、はく離し、シーリング材の機能を損なう可能性があります。
27. 薄めすぎは隠ぺい力不足、仕上がりが不良などが起こるため規定範囲を超えて希釈しないでください。
28. 上塗りに冴えたイエロー、レッド、ブルー、グリーン系色相を使用する場合は、共色を下塗りしてから塗装してください。なお、特に冴えた色相では、共色を下塗りしても標準の使用量、塗装回数で隠ぺい出来ない場合があるため、事前に試験施工塗り板などでご確認ください。
29. 調色には必ず当社専用の原色をお使いください。
30. 濃彩色や冴えた原色の場合、塗膜を強く擦ると色落ちすることがあります。衣類など接触する可能性のある部位には使用しないでください。なお、状況により常時接触するような箇所に使用する場合は、ピュアライドUVプロテクトSiクリアーを上塗りに塗装してください。クリアーのローラー及び刷毛塗装で、下塗り塗膜の再溶解や滲みが発生する場合には、スプレー塗装をしてください。
31. 大面積の塗装では補修部分が目立つことがあります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの条件を同一にしてください。
32. はけ塗り仕上げとローラー仕上げが混在する場合、使用量、表面肌が異なるため若干の色相差がでますので、はけ塗りの部分は希釈を少なくして塗装してください。
33. ローラー塗りの場合、ローラー目は同一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目により、色相や仕上がりが異なって見えることがあります。
34. 塗装方法により色相が多少変化する場合がありますので、ローラー塗りはできる限り入り隅まで入れてください。
35. 汚れ、きずなどにより補修塗りが必要な場合があります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの塗装条件を同一にしてください。
36. 塗装面以外に付着した場合は、乾燥するまでにラッカーシンナーまたは塗料用シンナーで洗い落としてください。
37. クロスの上の塗装は避けてください。
38. 布クロス、紙クロスや汚染防止のクロス(シリコン加工され水をかけると著しくはじくクロス)には塗装できません。塩ビクロスで可塑剤移行が考えられる場合は水性シミ止めシーラーを塗装してください。
39. ローラー、はけなどは、ほかの塗料での塗装に使用すると、はじきなどが発生するおそれがありますので、十分に洗浄するか、専用でご使用ください。
40. 可塑剤が多く含まれる塩ビクロス、塩ビ珪鋼板、塩ビラミネート、プラスチック、ゴムパッキン、合成皮革、などへの直接塗装はお避けください。また、これらの部材に塗膜が直接触れることがないようにご注意ください。
41. 平滑仕上げや鏡面仕上げの場合は、素材や素地の状態によって、吸込みや巣穴によるピンホール、凹凸などを防止するため、パテ工程や研磨工程が必要になる場合があります。
42. 塗料は内容物が均一になるようにかくはんしてください。特につや調整品では、つや消し剤が沈降している場合がありますので、かくはん機を用いて缶底の沈降物を十分にかくはんしてご使用ください。
43. 開封後は一度に使い切ってください。やむを得ず保管する場合は密栓してから冷暗所で保存し、速やかに使い切ってください。
44. 大気中の浮遊鉄成分が多い地域では、この鉄成分が塗膜表面に付着し、塗膜が赤褐色に変色したように見える場合があります。
45. 塗料漏洩の原因になりますので、保管・運搬時に容器を横倒しにしないでください。
46. 内容物/容器を国際、国、都道府県又は市町村の規則に従って産業廃棄物として廃棄してください。
47. 塗料、塗料容器、塗装具を廃棄する時には、産業廃棄物として処理してください。容器、塗装具などを洗浄した排水は、そのまま地面や排水溝に流すと環境に悪影響を及ぼすおそれがありますので、排水処理場などの施設に持ち込むか、産業廃棄物処理業者に処理を依頼してください。

■本カタログ掲載商品の詳細な危険有害性情報や使用上の注意事項等については、安全データシート(SDS)をご参照ください。  
 ■本製品は日本国内での使用に限定し、輸出される場合は、事前に相談ください。

## 日本ペイント株式会社

北海道支店	☎ 011-370-3101	近畿支店	☎ 06-6455-9608
東北支店	☎ 022-232-6711	中国支店	☎ 082-281-2180
関東支店	☎ 03-5479-3614	四国支店	☎ 0877-56-2346
北関東信越支店	☎ 03-5479-3614	九州支店	☎ 092-751-9861
中部支店	☎ 052-461-1960		

- 本カタログの内容については予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。
- 本カタログ中の製品名・会社名は、日本ペイントホールディングス株式会社または日本ペイント株式会社・その他の会社の、日本およびその他の国の登録商標または商標です。
- ニッパーフエクト(登録第5523001号)は日本ペイント株式会社の登録商標です。
- ©Copyright 2026 NIPPON PAINT Co., Ltd. All rights reserved.
- 日本ペイントホームページ <https://www.nipponpaint.co.jp/>

最新情報・お役立ち情報発信中

日本ペイント  
公式LINE



カタログNo.  
**NP-E086**

AA260505T  
2026年6月現在